

若年層の海外意識は保守的な傾向

—— アンケートからみた若者の上昇志向と海外に対する意識

レジャーや語学力の向上を目的に海外に出かける若者は多くみられます。では、収入改善やキャリアアップ、スキルアップなどに積極的な上昇志向の強い若年層は、海外についてどのような意識を持っているのでしょうか。

NRIが2008年8月に実施した「若者の生活意識に関するアンケート調査」によると、20代

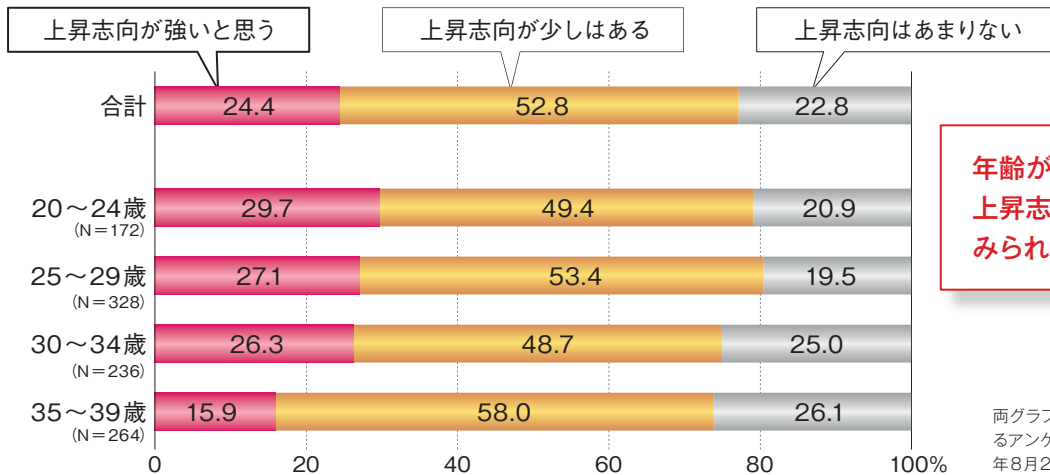
～30代のおよそ4分の1の人が、上昇志向が強いようです。

この人たちの海外意識について見てみると、外国人の友人を持つことや、外国語で外国人とコミュニケーションをとることに対しては、比較的積極的なようです。また、欧米先進国での就労や、国内での外資系企業への就職には関心を表しています。語学力やコミュニケーション能力を向上し、仕事に生かしたい様子が見られます。

一方、新興国、発展途上国での就労や海外への定住に対しては、消極的な様子が見られます。ここからは、「新たな可能性の模索」や「真の多文化共生」には慎重な姿勢がうかがえます。

上昇志向が強い人たちでさえ、海外に対する受容性は全般的に低いといえそうです。

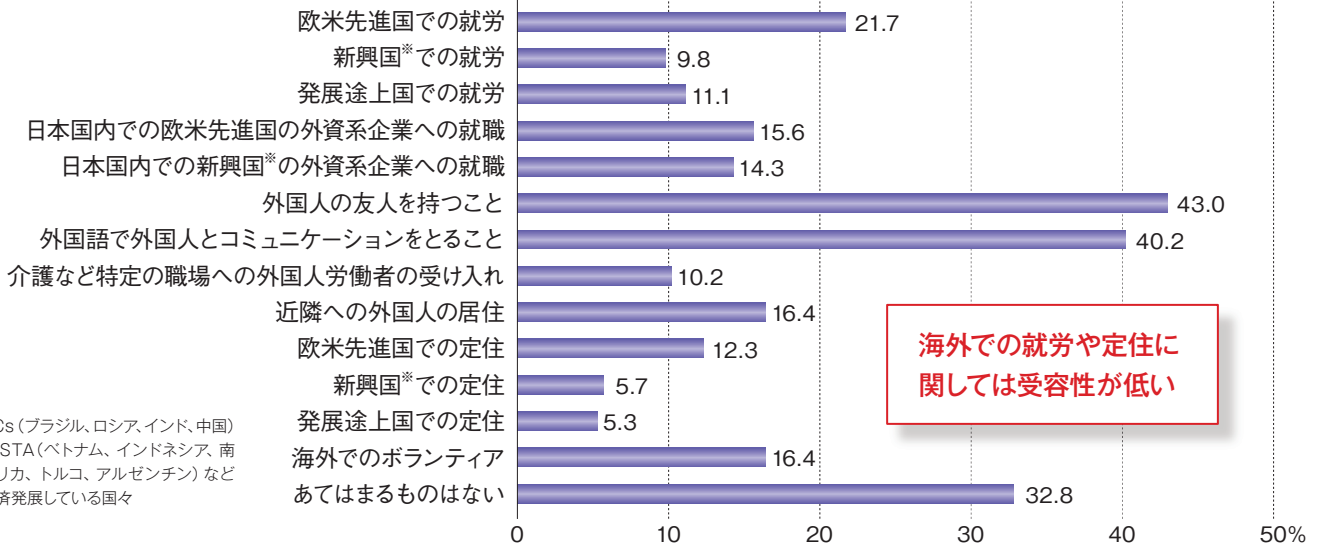
上昇志向についての若者の意識



年齢が低いほど
上昇志向が強い傾向が
みられる

両グラフ出所) 若者の生活意識に関するアンケート調査/実施時期=2008年8月2日～3日/回収数=1000サンプル/詳細=http://www.nri.co.jp/souhatsu/research/2008/pdf/rd200809_01.pdf

上昇志向が強い若者の海外に対する受容性 (N=244)



海外での就労や定住に
関しては受容性が低い

* BRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国) やVISTA(ベトナム、インドネシア、南アフリカ、トルコ、アルゼンチン)などの経済発展している国々